

(11)九州



九州地域では、景気は緩やかに持ち直している。

- ・ 鉱工業生産は持ち直しの動きがみられる。
- ・ 個人消費は緩やかに持ち直している。
- ・ 雇用情勢は持ち直している。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す(は上方に変更、 は下方に変更)。

前回からの主要変更点

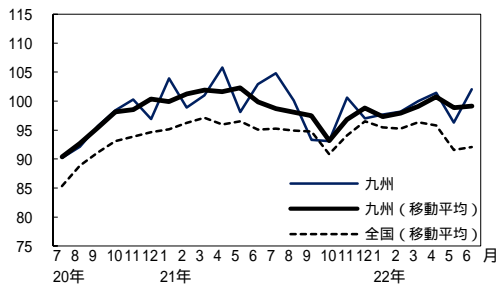
	前回(令和4年6月)	今回(令和4年9月)	
景況判断	持ち直しの動きがみられる	緩やかに持ち直している	
個人消費	このところ持ち直しの動きがみられる	緩やかに持ち直している	
雇用情勢	緩やかに持ち直している	持ち直している	

1. 鉱工業生産の動向

鉱工業生産は持ち直しの動きがみられる。

4 - 6月期の鉱工業生産は、「石油・石炭、化学、プラ製品」や「鉄鋼業、非鉄金属、金属製品」が増加したこと等により、前期比1.3%増となった。

鉱工業生産指数



- (備考) 1. 2015年=100、季節調整値、九州の最新月は速報値。
 2. 全国及び九州の太線は中心3か月移動平均、直近月は2か月平均。
 3. 九州の指数は、九州経済産業局「鉱工業動向」による(2022年3月まで、4月以後は九州各県の「鉱工業指数」により、内閣府にて算出)。

域内主要業種の動向(季節調整値、前期(月)比)(%)

	付加価値 ウェイト	生産				
		1 - 3 月期	4 - 6 月期	4月	5月	6月
電子・電気・情報通信	20.0	1.7	0.2	5.2	3.1	0.1
石油・石炭、化学、プラ製品	13.8	6.8	4.6	9.3	1.7	6.4
輸送機械	13.5	11.2	0.3	28.5	25.4	27.3
鉄鋼業、非鉄金属、金属製品	12.6	0.1	1.5	0.6	7.5	5.1
汎・生産・業務用機械	12.2	13.3	0.4	13.1	9.6	22.9
鉱工業	100.0	1.8	1.3	1.5	5.1	6.0

- (備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い5業種。
 2. 4 - 6月期、6月は速報値。
 3. 業種は内閣府にて分類。
 4. 各指数は、九州経済産業局「鉱工業動向」による(1 - 3月期まで、4月以後は九州各県の「鉱工業指数」により、内閣府にて算出)。

2. 個人消費の動向

個人消費は緩やかに持ち直している。

(1) 地域別消費総合指数 (RDEI (消費))

4 - 6月期は前期比2.7%増となった。月別にみると、4月は前月比0.7%増、5月は同3.4%増、6月は同2.9%減となった。

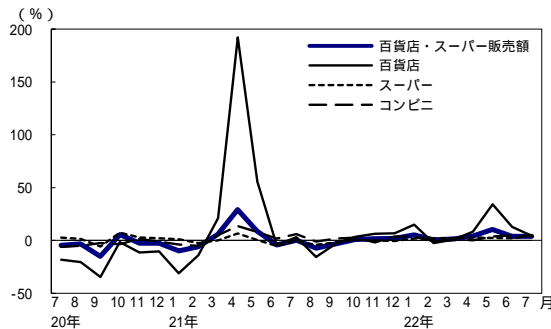
(2) 百貨店・スーパー販売額

百貨店・スーパーは、4 - 6月期は前年同期比6.1%増となった。月別にみると、4月は前年同月比4.2%増、5月は同10.3%増、6月は同4.0%増となった。

百貨店は、4 - 6月期は前年同期比17.5%増となった。

スーパーは、4 - 6月期は同2.4%増となった。

百貨店・スーパー販売額等
(店舗調整前、前年同月比)



	2022年4 - 6月	2022年4月	5月	6月	7月
RDEI (消費*1)	2.7	0.7	3.4	2.9	-
百貨店・スーパー(*2)	6.1	4.2	10.3	4.0	3.8
百貨店(*3)	17.5	8.4	34.1	12.8	4.4
スーパー(*3)	2.4	2.9	2.3	2.1	4.5
コンビニ(*3)	2.9	0.2	3.8	4.8	3.8
乗用車(*4)	14.1	14.7	21.7	6.6	4.5
(季節調整値)(*4)	1.1	1.4	13.6	13.2	5.9

(備考) 1. 季節調整前(月)比(%)

2. 店舗調整前、前年同期(月)比(%)

百貨店・スーパーは内閣府にて算出。

2022年7月は速報値。

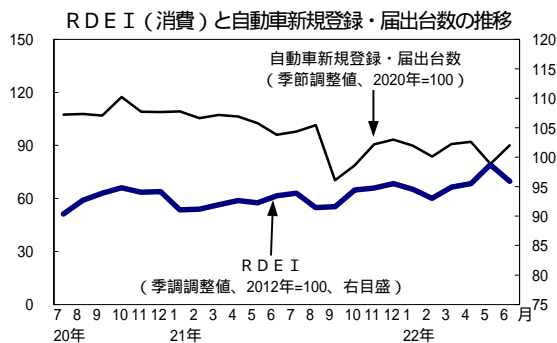
3. 店舗調整前、前年同期(月)比(%)

百貨店、スーパーは沖縄を含む経済産業省の九州の値。

コンビニは、経済産業省の九州・沖縄の値。

2022年7月は速報値。

4. 乗用車は、新規登録・届出台数(上段は前年同期(月)比(%))

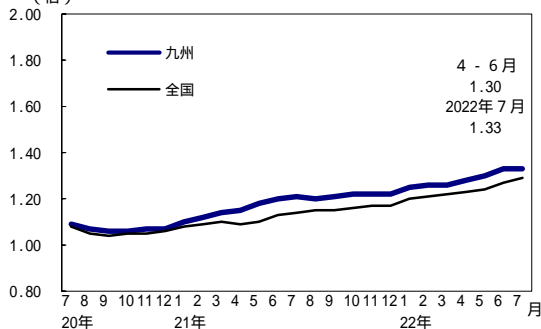


3. 雇用情勢

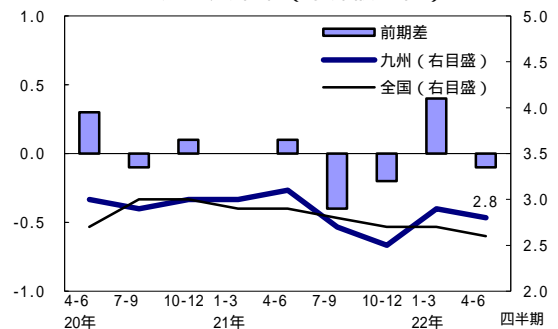
雇用情勢は持ち直している。

有効求人倍率は上昇している。完全失業率は前期を下回っている。

(倍) 有効求人倍率 (季節調整済、就業地別)



(ポイント) 完全失業率 (季節調整済)



(備考) 内閣府にて季節調整をおこなったが、季節性が認められなかったことから、原数値と同じ。

(13) 景気ウォッチャー調査（令和4年8月調査）景気判断理由の概要

11. 九州

(◎良、○やや良、□不変、▲やや悪、×悪)

	判断		判断の理由
	分野	判断	
現状	家計 動向 関連	▲	・物価高騰により買上点数は低下しており、新型コロナウイルスの新規感染者数の増加で買物頻度の低下が、アパレルを中心として顕著に数値へ表れている。来客数と買上点数の前年割れが収益ダウンに直結している（スーパー）。
		□	・今年は、お盆期間中の行動制限がなかったため前年と比べ来場者は多いが、海外からの客が戻るまでは厳しい状況である（その他小売の動向を把握できる者 [ショッピングセンター]）。
		○	・旅行や帰省、また、大人数で来店する客が増加し、購入目的が多く見受けられた（百貨店）。
	企業 動向 関連	□	・物件数や引き合い数は増加傾向にあるが、他社との競争は厳しく、材料の価格高騰を製品価格に転嫁できない（金属製品製造業）。
		○	・自動車関連では、特に電動関連のモーターや、半導体関連での引き合いが続いている（電気機械器具製造業）。
		▲	・新型コロナウイルス感染症第7波や局地的豪雨、記録的猛暑、また、続く値上げで、購入意欲が落ちている（経営コンサルタント）。
雇用 関連	○	・新型コロナウイルスの新規感染者数が増加しているが、イベント等の中止はなく稼働が戻りつつある（人材派遣会社）。	
	□	・2023年卒業求人数は、前年と比較すると増加しており、内定報告をする学生は前年比では大きな変化はなく、企業の新卒求人も緩やかではあるが、上昇傾向にある。ただし、長引くロシア、ウクライナ情勢の更なる悪化や物価上昇が続くことになれば、日本経済は大きな打撃を受けることになり、今後の企業の求人にも影響が出てくる（学校 [大学]）。	
その他の特徴 コメント		□：人の動きは前年より良いが、タクシーよりレンタカーの利用が増加している（タクシー運転手）。 ×：新型コロナウイルス感染症が落ち着いたようにあったが、また新型コロナウイルスの新規感染者数が増加しているため人通りが悪くなり、休業している店が多くなっている。当店では県外からの里帰りの客が若干あった程度である（高級レストラン）。	
先行き	家計 動向 関連	□	・半導体不足や原油高で家電商材も単価が上がっている。しかし、必要としている客は購入しているため、全体の売上に変化はない。この傾向はしばらく継続すると考えられる（家電量販店）。
		○	・新型コロナウイルス感染症の流行が落ち着き、行動制限が緩和されることにより、景気回復に向けた動きが活発になる（観光型ホテル）。
	企業 動向 関連	□	・新型コロナウイルス感染症の終息がみえず、当面は慎重な行動が続く（金融業）。
		○	・増産体制はできており、今後の原材料調達がうまくいけば景気は良くなると予想される（その他製造業 [産業廃棄物処理業]）。
	雇用 関連	○	・百貨店等今まで採用を控えていた業界が採用に動き出しているため、全体的に景気上昇に向かってしていると予測できる（民間職業紹介機関）。
	その他の特徴 コメント		○：新型コロナウイルス感染症の状況にもよるが、秋物の動きが活発になっており、秋も深まれば少しずつ景気は良くなる（商店街）。 ○：新車生産が滞っているが、新車投入効果で売上増加を期待している（乗用車販売店）。

(D I) 現状・先行き判断D I（九州）の推移（季節調整値）

